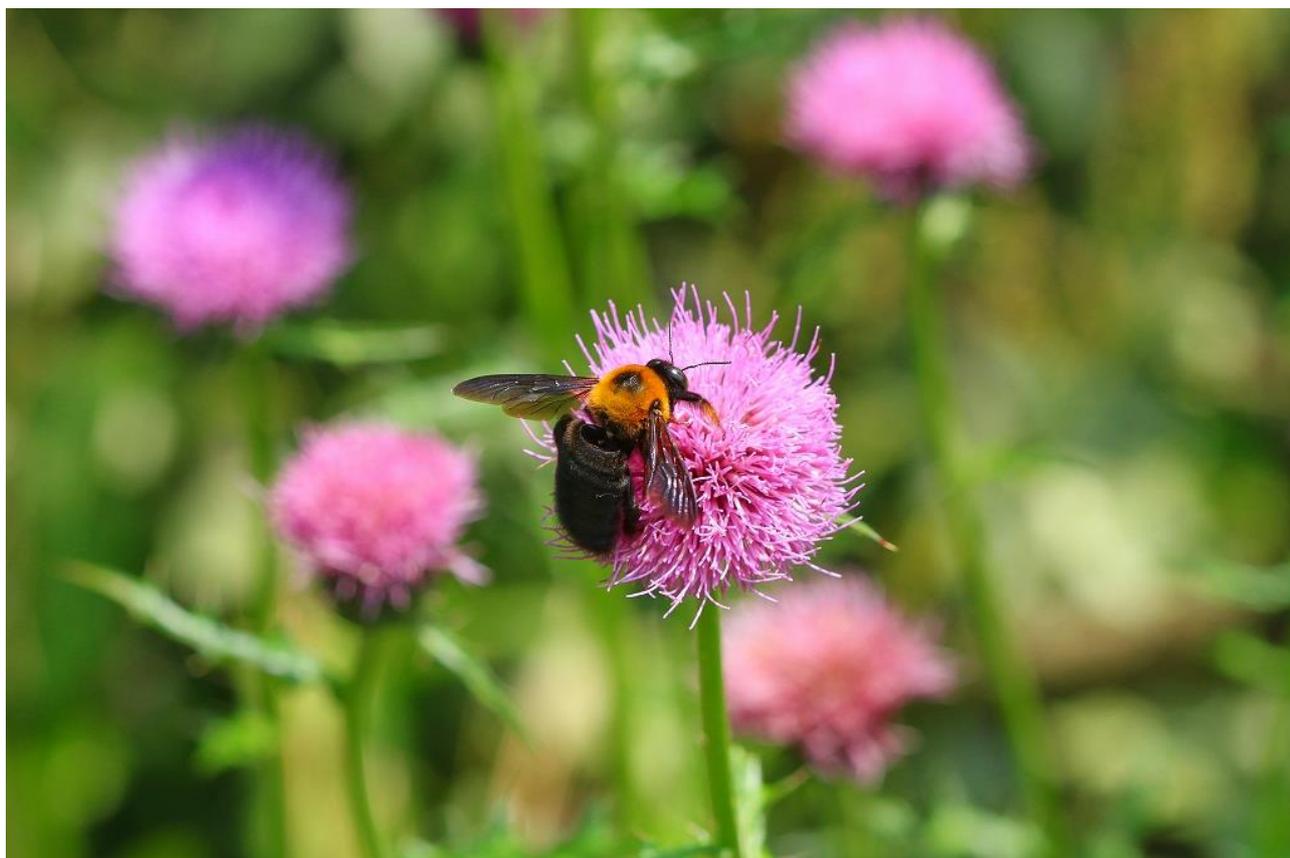


# よしまい

2022年 初夏号



アザミの蜜を吸うクマバチ

## 目次

### 公園の風景

- あなたをじっと見つめてる・・・1
- 東屋デッキ、リニューアルオープン・・・1
- レンジャートーク・・・1
- マツバウンラン・・・1

### ラムサール登録への道 ③・・・2

### みんなの広場

- 老いの坂を登り、外国人に道を聞く・・・2

### 活動紹介

- 大雨のち寒さと強風、なんのその・・・3
- ホームページが新しくなりました・・・3

発行：「葦の会」機関紙チーム

事務局：〒754-1277 山口市阿知須 509-53

きらら浜自然観察公園内

電話 0836-66-2030 (FAX 66-2031)

mail [ashinokai.kirara@gmail.com](mailto:ashinokai.kirara@gmail.com)

HP [ashinokai.html.xdomain.jp](http://ashinokai.html.xdomain.jp)

「葦の会」はきらら浜自然観察公園で活動するボランティアグループです。自然を楽しみながら、その素晴らしさを一緒に学び伝えていきませんか？

**会員募集中！（高校生以上）**

# 公園の風景

## = あなたをじっと見つめてる =

春から夏にかけて園路を散策すると宙に浮かんだ黒い虫、クマバチにそこかしこで出会います。じっと浮かんでいるだけかと思いきや、大きな羽音で急旋回してこちらに向かって来て…「キャッ怖い！刺される～!!」。



藤の花が大好き



ホバリングして観察中

ご安心を。近寄ってきてホバリングするのはオスですが、針を持たないので刺しません。いつもメスを探しているオスは、チョウだろうとヒトだろうと、動くものとはにかく追いかけ、クマバチのメスではないと確認しないと気がすまない習性なのです。よく見るとキラキラした大きな丸い目と、もふもふの毛におおわれたぼってりとした体。思わず触ってみたいく……なりませんか？

## = 東屋デッキ、リニューアルオープン =

老朽化のため立入が制限されていた淡水池の東屋周辺が改築工事を経て、ピカピカのデッキと共に開けた展望広場として新しく生まれ変わりました。そこで葦の会では新規オープンを祝して4月3日の午後にコーヒーを配り、来園者に水鳥観察をしながらのティータイムを楽しんでいただきました。淡水池のカモたちの向こうには周防大橋や陶が岳(すえがたけ)連峰まで広く見渡せる抜群のロケーション。雨の日でも屋根付きなので休憩にもってこいの場所です。お弁当持参で来園ついでにランチタイムはいかが？



## = レンジャートーク =

今年度からの新企画として、レンジャーによる公園内の生物にスポットを当てたプログラムが始まりました。毎月第2・第4の日曜日(15:00~16:00)老若男女どなたでも参加可能です。トークだけではなく四季折々の生物の話の後は、園路に出て観察することもあります。個性豊かな4人のレンジャーが交代でプレゼンターとなるそうで、これも又楽しみなことです。

## = マツバウンラン =



葉が松葉の様に細く、花は砂地に咲くウンランに似ていることから名付けられたマツバウンランは、およそ80年前に北アメリカからやって来て主に西日本に定着した帰化植物で、ゴマノハグサ科の雑草です。

背丈は20cmほど。公園でも4~6月に園路を歩くと春風に揺れている姿が見られます。繁殖力が強く、花から実ができるまでの期間が短いのであっという間に広がるのが難点とも言われますが、草原などに群生しているところは薄紫色の霞がかかっているようにも見え、美しいものです。

## ラムサール登録への道 ③



風景の一部としてそこにある湿地、私たちとどんな関係があるのでしょうか？  
この公園にもあるヨシ原を例に挙げてみましょう。

ヨシ原に生えているヨシは、昔からよしずや屋根などの材料として利用されてきました。心を癒す音色の木管楽器に使われているリードもヨシで出来ています。

私たちの食材となるカニや魚、貝などの中にはヨシ原で卵を産んだり、隠れ家にしたり、餌場にしたるものもいます。ヨシ原は川から流れてきた汚い水をきれいにしてくれますし、強い海風から陸を守ってくれます。洪水のときには岸辺が削れてしまわないように、津波のときには壁となって威力を弱めてくれます。

近年問題になっている地球温暖化ですが、ヨシ原は二酸化炭素をたくさん吸収して温室効果ガスを減らしてくれます。また、風にそよぐヨシ原の眺めやそこに住んでいる生き物のかわいいしぐさ、心癒されますね。…ほかにも挙げればきりがなくらい、目に見えない形で私たちの生活を支えてくれているのがヨシ原です。このような働きや自然の恵みは「生態系サービス」と呼ばれ、ヨシ原だけでなくすべての湿地が様々な形で担っているのです。 (つづく)

## みんなのひろば😊

老いの坂を登り、外国人に道を聞く。



葦の会の皆さま、お久しぶりです。葦の会を退いて2度目の春が過ぎました。皆さま方のご活躍の様子は「よしきり」にて楽しく拝見しております。美しい写真、日ごろの学習の成果に裏打ちされる記事文などから、会員のかたがたの活動に対する熱意が伝わってくるようです。

さて私は、葦の会リタイア後も元気に老いの坂を登っています。

3月半ばコロナ禍の東京に出かけました。年寄りが一人で歩く首都東京、田舎者とバカにされてはならじと肩肘張っての上京でした。目的地まで、いろいろな人に道を尋ね尋ねしながら歩きました。何度目かに尋ねた人は、顔は日本人のようでしたが雰囲気は明らかに西洋の方で、言葉も少しぎこちないようでした。身振り手振りを交えて親切に教えていただいた私は「日本人の私が日本国内を歩くのに外国の人に道を教えてもらうなんて」とタツプリの感謝とチョッピリの苦笑いでした。

2泊3日の所用を済ませ帰ろうと山手線に座り込んだ私に、我が身と心が「疲れ果てた！ 当分のあいだ動けない!!」と言い出し、とうとう山手線に座り込んだまま一周半もしてしまい「折角、花の都に来たのに疲れて遊べないなんて」と舌打ちしたい気持ちでした。でも近々再訪する予定ができ、今度は遊びの予定も入れなくちゃと思っていたら、「コロナ禍中にウロウロ禁止」と言われ、不承不承ながら納得するしかありません。

私はまだまだ老いの坂を登っています。葦の会の皆さんのますますのご活躍を祈りつつ。

(土×土)



# 活動紹介

## = 大雨のち寒さと強風、なんのその =

4月29日(金)に行われた公園の春まつり。大雨のため、計画された外での行事が全て、屋根付きピロティ部分を含むビジターセンター内へ変更となり、早朝からセッティングにバタバタのうちに9時の



オープン時間を迎えました。この大雨では…、悪い予感がよぎるも、傘をさし次々来園される方々の姿に胸を撫で下ろしました。

屋内では新企画の周防千鳥太鼓と蜜蠟キャンドル作り、恒例のはちみつしぼりに缶バッジ作りや餌とりゲーム、16羽のキジの雛の展示など。屋外では大雨の中のガイドウォーク、晴れてからは竹馬や干潟遊び等々、盛り沢山の企画を多くのファミリーが楽しんでくれました。

葦の会スタッフは上記企画のヘルプと、フリーマーケット、蒸しパン・おむすび・コーヒーなどの飲食の販売コーナーを受け持ち、物販にもうれしい手ごたえを感じました。



<俳句教室 最多選句>

- |                           |                             |                             |
|---------------------------|-----------------------------|-----------------------------|
| ・<br>雲厚き空を十字に初燕<br><br>道子 | ・<br>夏近し飛行機雲や旅ごころ<br><br>孝久 | ・<br>吟行のそぞろ歩きや芦荻葉<br><br>貞代 |
|---------------------------|-----------------------------|-----------------------------|

3月

4月

## = ホームページが新しくなりました =

葦の会の趣旨や私たちボランティアが日頃どんな活動をしているかを、ホームページで知っていただけるようになりました。会員の木本さんが担当し、ホームページの充実を図ってくれています。会の歩みや葦の会への入会案内、今後の活動予定などのほか、機関紙よしきりのバックナンバーもお読みいただけます。「葦の会きらら」で検索し、是非のぞいてみてください。もちろん、「きらら浜自然観察公園」のホームページからもアクセスできます。

### <編集後記>

5月の愛鳥週間に合わせ公園では「野鳥写真展」が開催されています。野鳥を愛する気持ちが伝わる作品113点と、県下の小中高生による昨年度の愛鳥週間ポスター優秀作も展示されています。(6/5まで) 今回の「よしきり」(No.116)は、100号までの編集に携わってこられた元代表の永野和代さんに「みんなの広場」に寄稿いただきました。エールをいただき、機関紙チーム一同、気持ちを新たにしています。

(Tasya)